

Do CL Column

突然の病の波がくれたプレゼント

—癌になった友人との優しい時間—

看護師 吉岡 順子

megujun@ma.wainet.ne.jp



二十数年来の友人Hさんが、肝臓を50%切除する大手術を受けました。一か月半前まで何の症状もなく仕事をしていましたが、職場の健康診断で肝臓の機能がかなり落ちていることがわかり、その日のうちに専門医へ紹介され、翌日から検査、検査の毎日、最悪の結果を予想しつつ、結果が告げられると最良の治療について医師と話し合い、大学病院へ紹介され、入院。さらに検査を重ねた結果、癌の告知。同時に可能な治療について説明を受け、手術の準備のための処置や治療、そして手術、大成功でした。

彼女の床頭台の上には、プレゼントした「心は今ままでいい」が今も置いてあります。癌の疑いから告知、手術を受けるまで、CLの教えが彼女の行動を支えました。お見舞いのたびにハグをして涙ぐみながら笑顔でお互いのぬくもりを感じました。癌になったことは、嬉しいことではありませんが、癌になったおかげで彼女とかけがえのない優しい時間を共有しています。

だれも明日の命ことはコントロールできません。今生きている事実に向け、必要な行動をすることが、どれほど生きることに役に立つことなのかを実感します。

大学病院のエキスパートの先生方の手術は、大成功でした。それでも、手術後には様々なトラブルに遭遇、熱が出たり、傷の一部が化膿したり、おなかの中に血の塊が出来たり、その都度、先生から説明を受け、痛みや苦痛に耐え、治療を受けたおかげで、少しずつ食事も食べられるようになりました。でも、先日、お見舞いに行くと少し元気がありません。

「入院生活が長くなり退屈で仕方ない」と言います。「何冊も本を持ってきたけど、読んでしまったし、パズルも飽きてきたし…」と言うのです。私は、翌日、本屋さんと手芸店に行き、「大人のぬり絵」と「ミサンガの簡単キット」を買い求め、入院先の病院へ送りました。

「大人のぬり絵」は、左側に見本の絵が描いてあり、右側には、下絵だけが描いてあるので水彩色鉛筆で見本の通りに色を塗って、塗り終わって切り離せば絵葉書になるのです。一冊が30枚、二冊購入したので60枚。

「ミサンガの簡単キット」は、いろいろの編み方ができるように、糸を組み合わせるキットが入っているので初心者向き。色の組み合わせも楽しめるように12色の糸も添えました。

最近彼女からは「ぬり絵の色のぼかし方に技を磨いています」「ミサンガの三つ編みを覚えました」「完成したら送るので気を長くして待っていてください」というメールが届きます。どうやら退屈な時間は減っているようです。

入院生活が長引き、これからの抗がん剤の治療のことなど不安をいっぱい感じながら、ぬり絵やミサンガ作りを頑張っている彼女のところに、今度の日曜日お見舞いに行行ってハグしてきます

新しい過去—還暦同窓会

先日、高校の還暦同窓会で161名の生徒と8名の先生が集まりました。60歳を迎えた生徒と80歳半ばを過ぎた先生方、はた目からは、だ～れが生徒か先生か～♪という感じでした。そんな中、ある先生は、ご自分が担任をされたクラスの生徒の当時の日誌のコピーを持参されていました。なんと、40年以上も前に書いた自分の日誌が読めるなんて、その先生のクラスの生徒は大喜びでした。その中の一人の感想です。

「わたしはね、田舎の中学からこの高校に入ったので、とっても委縮していた気がしていたんだよね。なんだか劣等感みたいなものをずーっと感じていたような気がしていた。ところが、今日、先生から当時の自分の日誌を見せてもらって、びっくりよ。だってね、私の文章、ま～、生意気というか、しっかり自分の言いたいこと言ってるじゃない！のびのびしてたんじゃない！と思った。あの頃の自分が愛おしくなっちゃった」とすがすがしい笑顔になっていました。

「過去の事実は変えられなくても、過去は新しくなりますね」。



窮地をプロチームのサービスで脱する

5月、CL教育研究会を初めて訪問し、名残惜しくおいとまして、空港に向かう京成八幡の駅で切符を購入、電車に乗り、ウォークマンで音楽を聴きながら、楽しく会話したことの余韻を楽しみながら、ちよつとうとうと。夢うつつで、乗り換えなきゃ～と思っていると、空港第二ターミナルの音声ガイドが聞こえてきて目が覚めた。「あれ、着いちゃった、直行で？あれ？」なんとなく違和感がありながら、第二ターミナルだよね、とあわてて電車から降りて、人の流れにのって歩いていた。すると「国内線、第一ターミナル」の表示が目にとまり、あら？第一ターミナルだったかな？と思っていると、「第一ターミナルビルへのリムジンバスは一階へ」の表示が目にとまる。なんとなく景色が違うんだよね～、と思いつつ、リムジンバスで第一ターミナルビルに移動。やはりなんとなく違和感を覚えながら、お土産物が目に入り、お土産を買い、バックに詰める。まだ時間あるな～とベンチに座り、ウォークマンで音楽を聴く。

18時40分発だからそろそろ搭乗手続きをしようと17時50分頃ANAのカウンターへ歩く、宮崎便は？？？あれ？？？ない？？ん、ん…。あっちゃ～！ここは、どこ？あたしは、羽田にいくなかったよね？？？あ～、呆然と立ち止まっている私に、ANAのカウンターから係りの人がにっこり、どうぞ、と声をかけてくれた。

私「ここは、な、り、た ですよ～」

係りの人「ここは、成田空港でございます。羽田とお間違いになりましたか？」にっこり笑顔で。

私「ここから羽田までどのくらいかかりますか？」とチケットを見せながら聞いたときには、係りの人はすでにキーボードを叩いていた。

さっきの笑顔は消えて「お客様、今から移動しても間に合いませんので、ソラシドエアの最終便に切り替える手続きをしております。それでもかなり厳しい時間ですので、間に合わない場合には明日の

朝一番になりますのでご了承ください。向かい側のサービスカウンターでリムジンバスのチケットをお買い求めいただきます。3,250円かかってしまいますが、ご了承ください」と言い終わったときには、予約番号をメモして、カウンターから出てきて、まだ呆然としている私の背中を押すように、「ここに予約番号をメモしておきました。ANAのカウンターにお示しください。リムジンバスは12番です」。

私「わかりました。ANAでいいんですね」と走り出す。

係りの人「ソラシドエアに通じています、大丈夫です」の声を背中に聴きながら、18時15分発のリムジンバスのチケット購入。12番バス停に行くとバスに荷物を積み終わったところ。

私「羽田行きですか？」とチケットを見せると、次の15分発のチケットですが、空席があるので乗りますか？と。私「はい、乗ります」と乗るとすぐに走り出す。

ところで、羽田までどのくらいかかるんだろうかとネットで調べる、一時間半らしい。ソラシドエアは、19時15分発、えっ間に合わないよー。でも、係りの人はかなり厳しいけど間に合わないとも言わなかったね。道路も混んでいないし、ひょっとして間に合うか？間に合わなければ、明日の仕事の段取りは…。事務長に帰れない場合があることをメールでやり取りする。そうこうしているうちに羽田の標識が見えてくる。

右手にバック、左手に予約番号の紙を握りしめ、19時3分にバス到着、真っ先に降り、まっすぐANAカウンターへ。やはり笑顔の係りの人に、

「すみません。ソラシドの宮崎最終便に切り替えてもらいました」。

やはり笑顔は消え「かなり厳しい時間ですが、しばらくお待ちくださいませ」と早口で返答すると同時にキーボードを操作、どこかに電話連絡。その合間に「宮崎便は、54番搭乗口がかなり距離がございます。お急ぎいただきますので…」と告げられる。電話を切ると「ご一緒に」と走り出し、手荷物検査口へ。チケットは係りの人から係りの人へ手渡しされ、検査を終えると、54番めがけて猛ダッシュ。

空港内の宮崎便の最終案内アナウンスが聞こえる。54番が見えたころ

「ヨシオカさま～。ヨシオカジュンコさま～」。私「は～い」と走りながら手を振ると男性の係りの人が走って近寄ってきて、荷物を持ってくれ、「お急ぎいただきます」。私「はいっ！」走ったあ～。で、最後のお客さんが乗り込むところにぜーぜー言いながら私が到着。そこには、やはり笑顔の客室乗務員が「お疲れさま～」。座席に座ったとたん。ほっとして涙がポロリ。自分の愚かさ、恥ずかしさを感じつつ、係りの人の笑顔のサポートに感謝、感謝。「ありがとう」。

何度も何度も「成田空港」の文字を目にしているのに、南ウイング、北ウイングも目に入り、アメリカに行くときのことを思い出したり、娘が友達と映っている写真はこのあたりだとか思ったりしているのに気が付いていない。羽田から品川まで京急で直行することと、京成本線が成田まで直行することが電車内の夢うつつの中でごっちゃになって思い込んでいたようです。それにしてもよくぞ間に合ったと思います。

ANAの係りの人のサポートは、まさに見事なCLでした。窮地に追い込まれている私が行動するための最小限の情報を最大の笑顔と優しい言葉で伝えてくれました。プロですね。素晴らしいサポートでした。以上間抜けな私のお話しでした。(宮崎県延岡市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)